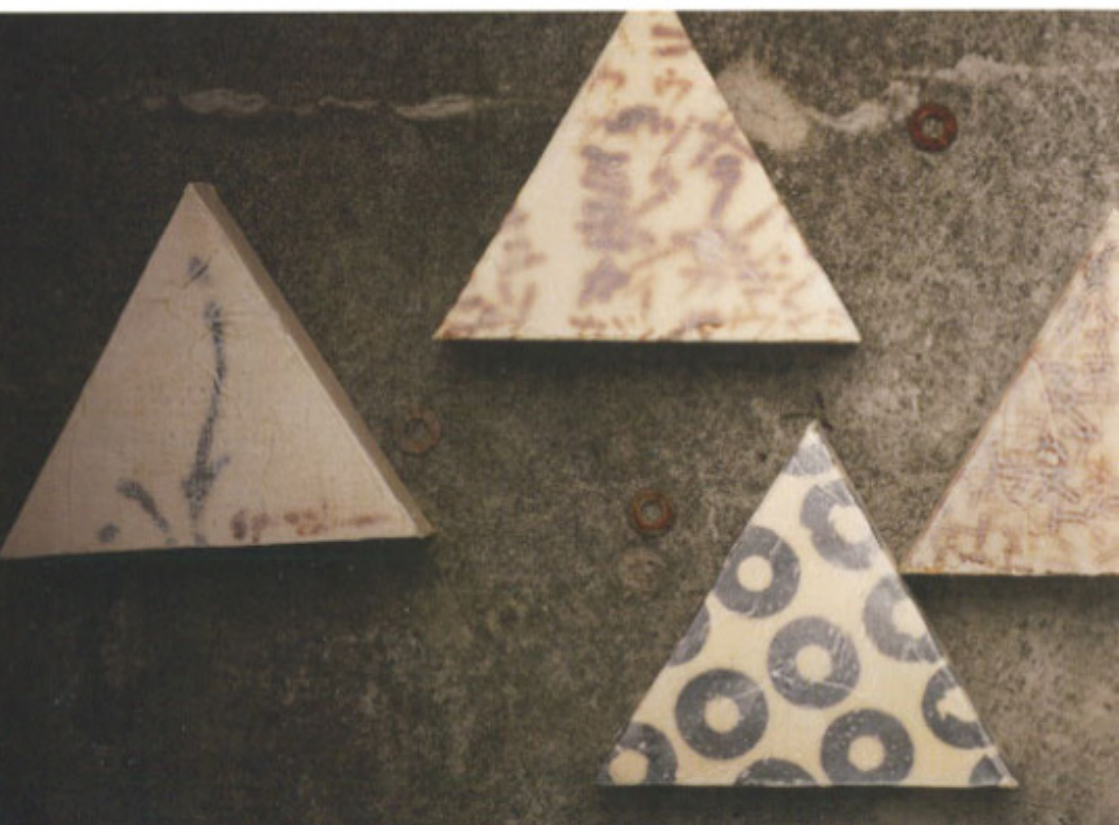


# 船 団

第 106 号

特集

わたしの城下町



第七回船団賞受賞

むささびを  
飼つてみたいな



秋月 祐一（一九六九年生）

飯蛸や明日いちばんの船で発つ

鯊釣の子どもに大人混じりをり

チロルチョコ大人買ひする日永かな

地図だけが頼りの道や櫛紅葉

朧夜のすぐになくなる眼鏡拭き

鈴虫の鳴いてる書店わが町に

未現像フィルム山ほど風光る

ライバルの不在をなげく零余子飯

花菜漬びやつと泣いたあとの顔

柿羊羹無口なれどもよく笑ふ

トイピアノ本気で弾くよ青嵐

二の酉や尻尾を脱いだへびをんな

烏賊飯を口にしたままはいと言ふ

冬夕焼みがき終へたる自転車で

角打や鮫の模様のアロハシャツ

むささびを飼つてみたいな宝くじ

夏帽子ぐつと押さへる風の駅

ぼろ市で買った仏のやうなもの

卓上に発明図鑑ひるねざめ

岬にはアロエ咲きをり冬うらら

長沼 佐智

辻占せんべいぱりからつと鴉の子  
長堤に汽笛が声が菜種梅雨  
緑陰へ大きな影の人と行く  
ぼつと白ぼわつと斑入り春の猫  
春宵のミルクいっぱいそこに明日  
定位置に父微動なし風薫る  
赤帽の絵のある駅舎立夏の夜

中原 幸子

春は名のみのお出した歯磨き戻らない  
鉄面皮ごっこ桜を待ちながら  
芽吹いてるみたい握手をしてあげる  
頂上はいいな弥生の昼の月  
結界のあれば越えたき紅椿  
桜散るところ刻々倒卵形  
青嵐ブツダを彼と呼ぶ男

## ● 会員作品 ●

火箱 ひろ

春や春はばかりながらアメフラシ  
子猫の名ワカメアラメの見分け方  
踏青の風の名前をいう遊び  
げんげ野にゆうらり四人老姉妹  
老人の羽化がはじまる雲珠桜  
国際アルツハイマー学会亀鳴けり  
春愁のスイッチオフにして帰る

陽山 道子

朝桜遠くの海を抱え込む  
飛花落花通勤電車さようなら  
麗かや大の字に寝て山の天辺  
春野ですあの人この人遅刻です  
リバーサイド他人がよろし初夏の風  
レガッタの男女素足の力瘤  
この道はあの日あのととき花棟

ふけ としこ

ぶらんこに片足かけてベニインコ

T a t t o oとネオンの細き猫の恋

しゃぼん玉壁の割れ目へきて消えて

木の囲む家の来し方春の月

花篝爆ぜて土竜の寝てをれぬ

耳鳴りは飼ひ馴らすもの柿若葉

海月浮くぼこつと音のしたやうな

藤井 なお子

鉄棒を肩幅に持つ西日かな

高い鉄棒低い鉄棒青嵐

白南風や鉄棒へ寄る哲学者

鉄棒が突如現れ更衣

鉄棒の周り明るし麦の秋

鉄棒や白詰草の彼方かな

かたくなに鉄棒黒く夏木立

● 会員作品 ●

杏中 清園

五月晴狩野永徳の孔雀飛ぶ

味噌作る源氏物語読みながら

初夏の風神戸港の船溜り

パソコンのコード纏れて青嵐

春宵や九十才の歌手デビュー

朧夜や月光仮面の何処から

大夕焼ガウディの塔空を突き

池田 澄子

百合の香と音楽密封してB1

幽霊に久しく逢わず夜も暑し

頭蓋骨なら有る貝風鈴も有る

買い置きの水の古りつつ夜の秋

暦では秋で骨まで食べられます

噴水や二人は笑いました

青茸とおぼしきものを見た目玉

坪内 稔典

オレンジの花の真下があなたかも  
天窓がまつさきに初夏坂の家  
雨上がる河口の空の青アゲハ  
友情は蛸のぶつ切り青葉風  
友情は群れてすぐ散る青葉風  
アカシアの花散る地熱発電所  
男らの藤七温泉雪残る

鶴濱 節子

卒業や角の食堂オムライス  
昏々とつらつらと飛花落花  
げんげ田にころがる卑弥呼見れば君  
ややこしき人も仲間だ雉子の鳴く  
夕暮れのバラの孤独かマティーニ  
朽ちていくバラの匂いの午前二時  
蛸茹でて男婚活青葉木菟

● 会員作品 ●

遠野 あきこ

咲きそむる梅映ゆるらむ朝ぼらけ  
梅見とて蜜を賞するつがい鳥  
暁の香に満ちてあり白き梅  
ぼつぼつと夜半に語らう梅白し  
曇天の日こそ明るき梅一枝  
緑苔の梅花つま弾く風のあと  
白き梅すがれて暗し雨の庭

桑原 汽白

すきやきのまえにちやいろいたまごわろ  
はるのうみきみとぼくとのきょうかいせん  
はるのうみたまがわせんはおのりかえ  
おせきはんにごましおおしつこはがまん  
よこすかせんどうこうしようとおもっている  
よこすかせんかっぱいちにんまえでいい  
ところてんせにがたへいじおかつびき